



文部科学省

# 地(知)の拠点

COC事業を始めとする様々な地域活動をお伝えする広報誌！！

杏林大学では2013年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)に採択されました。「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」として、「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3分野を取り上げ、三鷹市、八王子市、羽村市の3市と連携事業を進めています。

この地域交流活動かわら版は、連携3市との様々な取り組みを「見える化」し、更なる地域交流活動を促進させることを目的としております。

## 地域交流活動かわら版

vol.10 2015/11/2  
地域交流課



### NEWS

### コンソーシアム八王子 FD・SDフォーラムにて分科会を担当



5回目を迎えるこのフォーラムは8月28日～29日に行われ、今年度の目的は大学改革に向け先進的な取り組みを行っている各大学の事例を全国の参加大学が共有し、新たなFD・SDの可能性を探ることでした。

本学は、第5分科会を担当し、一大学の地域貢献について本音で語り合おうと、大胆なテーマを設定しました。杏林大学の「地(知)の拠点整備事業」の先進的な取り組みについて古本室長による説明がされたあと、地域貢献活動の成果発表を行いました。各学部の学生10名と、保健学部太田先生、榎本先生、総合政策学部木暮先生による発表は参加校にとって今後のモデル

となるものでした。

その後、大きな成果を得ることができているけれども...を前提に、井上地域・大学間コーディネーター、八王子市職員の福田純氏、大学とともに活動を行っている羽村市民の小林貴純氏、八王子市民の小林美穂氏、三浦佐知子氏が意見を述べました。それぞれの立場から、「内」の連携、「外」の連携についての課題や今後の方向性を中心に課題や今後の展望が語られました。

これらを受けて行われた、総合政策学部進邦先生によるワークショップでは議論が噴出し、各参加校にとっても意義深い研修となりました。



# NEWS

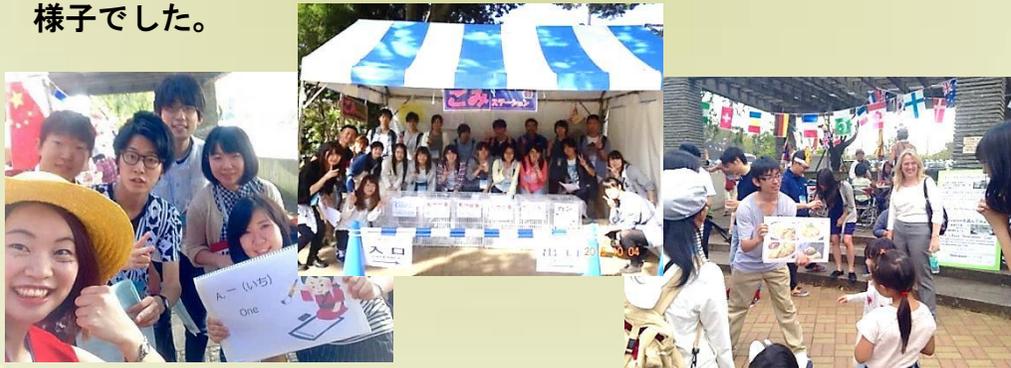
- ・三鷹国際交流フェスティバルにてボランティア活躍！
- ・中学生と協同、学生リーダーとして平和フォーラムに参加

## 学生ならではのボランティア活動、大活躍！

10月4日に4万8000人の来場で賑わった「三鷹国際交流フェスティバル」に外国語学部の坂本ゼミ・稲垣ゼミ・岩本ゼミ・八木橋ゼミの学生や公認同好会「国際交流会」、ボランティア団体「feel」、その他興味のある学生等36名がボランティアとして参加しました。

計画の段階から実行委員会に参加し、当日は外国語学部のゼミ生は外国の方に折り紙を教えたり、日本文化に関するクイズを行うなど、参加者との交流を深めました。「feel」は、エコレンジャーとして3ヶ所あるごみステーションの管理、フェイスペイントの呼び込みや行列の誘導・整理にあたりました。

フェスティバルを終えて外国語学部の酒井梓さんは「キャンパス移転後もこういったイベントを通じて地域の方々との交流の場を広げて地域貢献ができればと思います」と話していました。「feel」代表の大井遥香さんは「当日までに行われた会議を通し、今回のような大きなイベントに参加することで、部としても成長できたのではないかと思います」と活動に確かな手応えを感じた様子でした。



## 学生リーダーとして参加！

### 青梅・羽村ピースメッセンジャー

8月15日、生涯学習センターゆとろぎで行われた「平和フォーラム」に本学より保健学部の三浦絢音さん、外国語学部の山本雄貴さんの2名が学生リーダーとして参加しました。羽村・青梅の中学生たちのリーダーとして共に広島での平和記念式典へ参加し、平和関連施設の見学や原爆被害者から話を聞いたことを5グループに分かれ異なるテーマを設定し発表しました。

2人は、「普段の生活では平和について考える機会はなく、広島での3日間は大変刺激的で、今の中学生や私たちが、戦争の悲惨さや平和の大切さを、次世代まで語り継いでいく必要があると考えました。このことがどれほど大切なことであるかを中学生たちは身をもって知ることができたと思うし、その貴重な瞬間に立ち会うことができたことを誇りに思います。」と話してくれました。羽村市の担当の方からは、「中学生からも慕われており、大変人気でした」と高い評価を頂きました。



#### ◆かわら版についてのお問い合わせ

杏林大学 地域交流課 渡辺・依田  
Tel 042-691-8725 (内1105)  
Fax 042-691-3809  
Mail [area@ks.kyorin-u.ac.jp](mailto:area@ks.kyorin-u.ac.jp)